

情報システム技術部門—研究協議会

G 空間社会の成立と防災における情報活用の未来

[資料あり]

9 月 13 日（水）13:30～17:00 法経済学部本館 第 7 教室

司会 小林祐司（大分大学）

副司会 山田悟史（立命館大学）

記録 北垣亮馬（北海道大学）

1.主旨説明 阪田知彦（建築研究所）

2.主題解説

①G 空間社会と防災 BIG データ

畑山満則（京都大学）

②G 空間社会と防災アーカイブ

柴山明寛（東北大学）

③G 空間社会と防災まちづくり

金 度源（立命館大学）

④G 空間社会と防災シミュレーション

瀧澤重志（大阪公立大学）

⑤G 空間社会と防災の歴史

中澤公伯（日本大学）

3.討論 モデレーター：藤井健史（金沢工業大学）

4.まとめ 大場 亨（パスコ）

社会全体が Society5.0 に基づく持続可能な社会を目指す中、地理空間情報を高度に利用する G 空間社会が到来した。G 空間社会は、誰もがいつでもどこでも必要な地理空間情報を使ったり、高度な分析に基づく的確な情報を入手し行動したりできる G 空間（地理空間情報）高度活用社会である（国土地理院より引用）。G 空間社会が包摂する分野やターゲットは広範囲でかつ多種多様である。身近では、GIS（地理情報システム）や BIM 等のアプリケーションの進化や活用が進み、様々な地理空間データがオープン化されてきており、誰もがこうした様々なアプリケーションやデータにアクセスでき、それらを駆使して課題解決を図ったり、情報を共有したり、といった環境が成熟してきているという言い方もあり得よう。

一方、南海・東南海トラフ地震や首都直下地震等の発生が危惧される中、関東大震災 100

周年を迎え、防災における情報活用は不可避であるというのは過言ではないだろう。また、防災はその意味する範囲が広範で、かつ多種多様な現象・事象や解決すべき課題が多い。そうした課題解決において、様々な情報活用に関してのトライアルがなされている。

本研究協議会では、防災における情報活用の最前線についてのご講演ならびに多くの寄稿文を通じて、防災における情報活用についての現在地を共有・俯瞰しつつ、さらにそれらの未来について多面的に議論することを予定している。防災分野における今後の持続的なG空間社会のあり方やそれを支える情報技術・データの今後の展開、さらには社会制度等のあり方等を端緒として、未来指向型の議論を行いたいと考えている。